

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072100314		
法人名	特定非営利活動法人 かしわ		
事業所名	グループホーム かしわ		
所在地	群馬県高崎市箕郷町柏木沢 586-5		
自己評価作成日	平成 27 年 9 月 10 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成27年10月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームの理念のごとく、利用者全員の人達が、住んでいる地域の中で、自由でゆったりとした気持ちで過して頂き、利用者の趣味や特技となる事を引き出ししながら、張り合いのもてる喜びのある生活をしています。
 外出行事も1ヶ月に1度は行き、元旦の初詣、初午の獅子舞、梅林にて梅もぎ、はにわの里にて手作り弁当持参で行く、三つ寺公園桜の花見、榛東の薔薇園オープンガーデン、浜川の菖蒲等出掛けている。
 ・利用料が良心的で期限のない生活を安心して過ごして頂け家族さんにも喜ばれている。
 ・榛名山、赤城山も一望出来、田畑に囲まれて澄み切った空気の環境の中に建てられています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

榛名山・赤城山が一望でき、事業所の周囲は稲やそばなど、その季節毎の田畑の様子が分かる環境である。開設以来15年の歴史のなかで地域との関係づくりに努め、散歩時等での近所や田畑仕事をしている人との会話、公民館サロンでの交流、災害時の地域の協力連絡網や災害訓練の地域の方の参加など、地域との一体感が伺える。また、運営推進会議には、とりわけ毎回多くの家族が参加しており、会議後には、家族との個別の面談を行い、利用者の状況などを伝え、家族の思いや意向・意見等を聞く場としている。また、食材が豊富で彩り豊かなメニューのもと、利用者のできる力を準備・後片付け等に発揮させ、職員が調理し、職員も利用者と一緒に会話をしながら食事をし、食事を楽しむことのできる支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時の際、理念をその日の職員で唱え、全職員が共通した認識を持ち実践している。	申し送り時や職員会議で、慣れ合いから生じる言葉遣いの問題やその人に合った統一したケアの実施などを話し合うなかで理念に触れ、理念を振り返り、意識の共有を図りながら実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年に2～3度の地域のサロンの行事として「健康を保つ体操」「嚔下を防ぐ口腔体操」の講話など、利用者や地域のお年寄りの人達と一緒に参加し、交流を図っている。	散歩時には、ゴミ拾いをしたり、近所や田畑仕事をしている人と声をかけ合ったりしている。地域の公民館で開催のサロンに参加し、レクリエーションなどを通し、地域の高齢者の人達と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の行事「オカリナ演奏」やその他の催しものなど交流の場を設け、利用者の人達の事を、生活の場の中から自然に理解してもらえる様努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の会議には、家族の半数以上の参加を頂き、利用者の健康面、生活面など個々に説明し、今現在の状況を理解してもらい、その中で家族の意見を元にサービスの向上に活かしている。	家族の希望等を聞き会議の開催日時を決め、毎回半数以上の家族の参加を得ている。会議では、事業所の活動報告等を行い、参加者から意見や要望を聞いている。	地域の方や多くの家族の参加が得られている状況のもと、事業所の活動報告にとどまらず、運営等に関する意見が得られるような議題の工夫などを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の職員さんとも会議を通して、情報交換し、市町村の主催する農業祭などにも、利用者や参加している。	運営推進会議の議事録などの報告書類等は直接持参し、事業所の状況等を説明し、関係づくりに努めている。また、市主催の農業祭には、利用者や参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当ホームでは身体拘束をしないケアに努めている。	外部研修会や事業所内の会議で話し合い、身体拘束についての理解を深めている。利用者の言動を抑制しないような言葉遣いを話し合ったり、不穏時にも職員が自然体で接し、見守り、一緒に外出するなどして、玄関の施錠を含め、身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員と利用者との長い年月の間に慣れが生じ、言葉の虐待にもなりかねません。その様な事が見過ごされる事がないように、注意し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設にも後見制度に関係のある若干名の利用者がいますが、弁護士に依頼したり、親族が独自で後見人をして利用者を支えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者入所時、家族を含め説明し、納得し理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置している。会議後、個別に利用者や家族に意見、要望を聴き話し合いを持ち反映させている。	利用料の支払いを現金払いにしたり、運営推進会議後、参加の家族との個別の面談を設けるなどして、できるだけ家族と接する機会を持ち、家族に利用者の状況を説明し、意見や要望を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の業務の申し送りなどから、利用者の処遇面の改善点などを、その都度話し合いを持ち反映させている。	職員会議や申し送り時等に、職員との意見交換を行い、統一したケアとケアの向上に努めている。オムツに名前を書くことや色分けをすることで区別対応するなど、その都度、意見交換し、取り組んでいる。また、歌、絵画、体操など、個々の職員が得意とするものを発揮できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の得意とする分野を生かしレクリエーション、又環境整備などに役立て、やりがいのある仕事場づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	利用者をケアしていく上で必要な研修に参加してもらい、向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交換研修を行い、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	加齢の伴い状況が徐々に変わりつつある中で、利用者本人が今現在困っている事を早く察知し、不安を軽減し安心して過していける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	会議後の個別での席で、家族等の要望や困っている事などに、耳を傾け家族との信頼関係を深めながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人が今どのような事を必要又は希望しているかを見極め話し合い、その人がはりあいを持てる様な生活をしていける様支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で利用者本人が出来る事、又得意とする分野を生かしてもらい、時には職員と利用者の仲が持ちつ持たれずの関係に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	認知症が徐々に進む中で、その際の現状を家族に伝え、利用者本人にとって一番良い方法へと家族との絆を大切にしながら関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が今までのおつきあいの中で馴染みの人がいる場合は気軽に来所して頂ける様、家族を通して、声掛けをして頂いている。	家族を通し働きかけをして、友達に面会に来ていただいている。外出行事を企画実施する際には、利用者が以前住んでいたところなどを通ったりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	今現在難聴の利用者も半分以上に増えてしまい利用者同志の会話が成り立たず、その都度職員が関わり利用者同志が楽しく生活出来る様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて家族の要望があれば情報を提供し支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしい暮らしを続ける為に、これまでの本人の言動などで感じ得た希望や意向を把握し本人本位になる様検討している。	生活歴や家族から聞いて把握に努めるほか、普段ケアするなかで観察を行い、しぐさや表情で判断したり、働きかけを行ったりして把握し、反映に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の生活歴から入所後の生活などが止むを得ず、変わってきてしまう利用者もいる中で、一人一人がその人らしい生活をしていける様な支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人の日々の生活のパターンを把握し食事の摂取量、精神面、行動や言動の様子を見逃す事なく見守り対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全員の職員から一人一人の利用者の日々の生活の中から情報を把握し話し合い6ヶ月毎に作成している。身体の変化が見られた際には速、主治医の指示を仰いでいる。	介護計画は、家族からの意向を反映させ、職員間で日頃の様子について意見を出し合い、ケアマネージャーがまとめ、作成している。日々の記録や申し送り等をもとに、毎月モニタリングを行い、6ヶ月毎の見直しにつなげている。	ケアプランに沿った日々の介護記録の工夫を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の日々の様子をチェックし特変時にはなるべく詳しく個別のケア記録に記入し情報を全職員で共有し、介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当ホームは単独型であり認知症対応型共同生活介護のみの支援である。個々に必要なサービスは提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年2回の防災訓練では地域のサロンの方々、民生委員、区長さんの方々の協力を得ている。又散歩を楽しみながら、ゴミ拾い、空き缶拾いなど、出来る事を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に今までのかかりつけ医に家族側で受診して頂けるか、いなかを決め、利用者 と家族の人がなるべく関わりを持ってもらう方向にしています。	かかりつけ医の受診は、基本は家族対応で、受診時には、利用者に関するノートを家族に渡し、情報共有のもと受診がスムーズに行くように支援している。協力医をかかりつけ医としている利用者は、月に1～2回往診が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で、小さな変化や気づきを見落とす事なくチェックし職場内看護職員に相談し本人にとって適切な対応に心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人自身の事が病院側に良くわかる様、日常の介護記録や情報提供をし、施設側で出来る事は行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期のあり方については、入所時に説明し理解してもらい納得してもらっている。入居している限りは施設側はベストを尽くす。	基本方針は、医療行為を必要とするようになった場合、食事が口から摂取出来なくなった場合は、病院等での対応とし、契約時に家族に説明している。状態変化に伴い、家族、医師と相談しながら、事業所としてできる限りの支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が救急救命講習を順次受け、急変時や事故発生時に対応できる様努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練には消防署、設備業者又地域の方々の協力を得て利用者の誘導を行って頂いたりして地域の協力体制を築いている。	年2回、うち1回は消防署立会いのもと、夜間想定も取り入れ、訓練を実施している。地域の協力員(3～4名)の連絡網が整備され、訓練にも参加し、誘導・見守りの役割分担で行われている。また、食糧や飲料水を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、トイレ誘導時、排泄介助のさりげない声掛け、紙パンツやパットも色分けをしプライバシーを損ねない様になっている。	名前はさんづけで対応し、語気が強くなりがちな職員には日頃気づいたときに注意している。トイレ誘導の際には、なにげなく他の利用者に分からないように対応するなど、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外食時のメニュー又は誕生日のお昼のメニューなど、なるべく本人が希望する食べ物を選んで頂いたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人がやりたい事、得意とする事(例、雑巾縫い、食器の後片付け、おしぼりたたみ)をして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者本人が「今日は何を着ようかしら」と職員に聞いてくるので、その様な時はアドバイスしながら、本人の希望とを合わせて選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食時個々のペースにまかせ、ゆっくりと食べて頂いている。又その後の食器拭きや、片付けなど職員と一緒にしている。	週4日は外注による献立、食材の提供により、残りの3日は利用者の希望を聞きながらメニューを考えており、食材も豊富で彩り豊かなメニューのもと、職員が調理し食事を提供している。利用者はジャガイモの皮むきなどの下拵え、下膳、食器洗いなどできることを行い、職員も一緒に利用者と同じ物を会話しながら食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の食べやすい大きさにきざみ、誤嚥しない様にしている。又食事の摂取量の表を作り、栄養の面がいきとどいているかを把握している。又、お茶の他に好きなジュース等を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。必ず全員が済むまで職員の介助の元で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意や便意のない人には、時間でな気なく、声掛けをする。排泄表を活用し個々の排泄リズムに合わせて、自立に向け支援している。	定時のほか、排泄チェック表を活用し利用者個々人の排泄パターンを把握してのトイレ誘導、日常のしぐさから把握してのトイレ誘導により、トイレでの排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食の食材に繊維質や乳製品を取り入れ、なるべく自然に排便がなされる様取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者週2回の入浴となっている。低温度でゆっくりと入浴したい方、高温度で短時間で入浴したい方ゆっくりと会話や歌を楽しみながら、入浴したい方と那个人に合わせて支援している。	入浴は週2回とし、低温度でゆっくり入浴したい人、高温度で短時間で入浴したい人など、利用者の希望やペースに沿った対応をし、職員と会話したり、入浴剤を用いるなど、入浴を楽しむことのできる支援をしている。入浴を拒否する方には、日を変えたり、他の職員に変えたり、次の人と交換したりして対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠のパターンに合わせている。昼寝をしよう事夜寝られなくなってしまう方がいるので、長く昼寝をしない様工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が使用している薬の用量や用法又副作用など主治医、薬剤士の指示に従い、症状の変化など、見逃す事なく確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の利用者本人が、毎日過していく上で張り合いが持てる様、環境を整え、その人らしく喜びのある生活が送れる様に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候によって庭でお茶飲みをし、歌を唄ったり散歩に近所をひとまわりしている。家族の協力のもと、外食、お墓参りなどしながら、気分転換を図っている。	日常的には、近所を散歩したり、庭でお茶のみをしたりしている。月に1回外出行事を計画し、季節の花見や外食に出かけている。また、職員と一緒に洋服などの買い物に出かけるなどの個別支援も行っている。また、お盆や彼岸等は、家族の協力のもと外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の兄弟さんがお金を渡していかれる人がいますが、管理が無理な事を説明する。何か必要な物や希望があった際には施設で立替をし月毎に請求をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により昔のつながりのある人には声掛けをして、来所してもらう様のしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに天窗があり明るく開放感があり良いのですが、逆にその明るさが不快に感じさせてしまうので、ひさしを付ける工夫をする。又壁には利用者の作品や季節の花がテーブルに置かれ心地よく過している。	リビング兼食堂は、光を上手に取り入れるよう工夫し、キッチンの様子が嗅覚や視覚で分かり、コーナーには畳敷きのスペースがあり、こたつも配置されている。キッチンのテーブルにはコスモスなどの季節の花が飾られ、壁には季節の花をモチーフにした利用者の貼り絵や行事の写真が飾られ、季節感と生活感のある空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の利用者が自由に選んで過せる様、ソファとベンチ等が、3ヶ所に置いてあるので、気の合った同士で雑談が出来る様な工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には本人の馴染みのタンスが置かれ、本人の好みの人形や壁掛けなど飾られ、その人らしい、居心地良く過せるような居室となっている。	各居室は個人に合わせ、入居時ベッドの位置なども普段の様子を聞きながら配置している。タンスやテレビ、人形や写真など、好みのものや使い慣れた馴染みのものが持ち込まれ、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人一人の趣味や特技を生かしその人が無理なく出来、張り合いにもなってくれる様、自立した生活が送れる様支援している。		